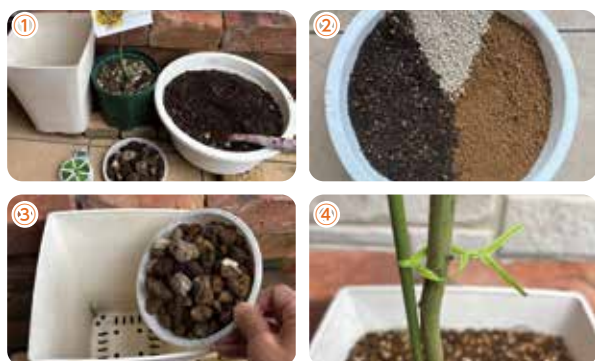




【お庭づくりの極意】

1月下旬は一年で最も寒さが厳しい時期。凍結防止のため水やりは1週間に1度、午前中に控えめに行い、株元には敷きわらや腐葉土を厚く施して保温します。植え替えは避け、寒風を遮る簡易風よけで株元と根をしっかりと守ることが大切です。

手順



①2回り大きなコンテナに鉢増し。庭への植え付けは、3～4月と10月が適期。②園芸培養土4：赤玉土(小粒)4：ひゅうが土(細粒)2を配合。③コンテナの底に鉢底土を敷き詰める。④若木のうちは支柱とビニタイでしっかり固定。植え付け後の移植を嫌うため、最終的な樹高を見越して植栽場所を選ぶことが大切。

栽培管理のポイント

過湿を嫌うミモザは、水はけの良い土壌に植えるのが基本です。粘土質の庭土には、掘り上げた庭土に腐葉土を2割、ひゅうが土(細粒)を1割混ぜると生育が安定します。マメ科の特性として根に根粒菌を宿すため、肥料がなくても育ちます。無肥料でも成長が早いので、栽培は簡単です。

お庭づくりのポイント

花後の“軽剪定”が翌年の花に影響します。剪定は開花後すぐの3～4月が適期。花房がついた枝を1/3ほど切り戻し、混み合った枝を間引くと、翌年の花芽が増えて樹形も整います。秋以降の剪定は花芽を落としてしまうため厳禁。



今年度はお庭の後景部分を彩る花を季節ごとに紹介します。手軽に入手できて、誰でも簡単に咲かせられる超スタンダードな園芸植物の栽培法をマスターしましょう。



No.13 ミモザアカシア



マメ科アカシア属の常緑高木で、早春に黄金色のふわふわした花を咲かせます。欧州では春を告げる木として人気。成長が非常に早く、シンボルツリーとして最適です。細かく裂けた羽状葉が銀色を帯び、花がない時期でも観賞出来る花木です。2～3月に満開になり、いい香りが漂います。切り花はドライフラワーとして楽しめます。

開花期間 2月下旬～3月

水やり 鉢植え：鉢土が乾いたら、たっぷり。

庭植え：植え付け直後を除けば水やり不要。

置き場 日当たりのよい場所

マメ知識

ミモザアカシアの原産地はオーストラリア南東部です。乾燥気候に強く、成長スピードの速さや強い再生力が、原産地の環境特性と深く結びついています。オーストラリア先住民アボリジニでは、生活文化に深く根付いていた生活木といわれています。

市公式YouTubeでは「ポスライムの水挿し」についての動画を公開中！ぜひご覧ください！

